

第3回岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会 議事概要

○日時

令和2年6月

○場所

書面開催

○出席者

岡山県後発医薬品の安心使用のための協議会委員
事務局 岡山県保健福祉部医療推進課
医薬安全課

○議事内容

1 令和元年度事業の報告について

- (1) 公的医療機関における後発医薬品採用品目リストの更新について
県内の公的医療機関30施設に対し採用品目を調査し、とりまとめた。
令和2年3月31日、県のホームページに掲載し、公表した。
- (2) 後発医薬品製造工場見学・意見交換会について
令和元年11月1日(金)、東和薬品(株)岡山工場にて実施(参加者29名)
- (3) 情報提供及び普及啓発について
パネル展示や講演会、テレビ・ラジオなどを活用し、啓発活動を行った。

2 令和2年度事業の計画について

- (1) 市町村国保が行っている後発医薬品に関する事業の水平展開について
市町村国保にアンケート調査を実施し、情報共有することで、使用促進を図る。
- (2) 若年層に対する啓発について
岡山県では、特に若年層の使用率が低いことが課題の1つであり、親子で楽しく後発医薬品について知ることができる絵本を作成し、広い年代に対し啓発する。
- (3) 後発医薬品パネル展について
市役所等において、パネル展を実施し、来庁者に対し広く啓発する。
- (4) テレビ、ラジオ、広報誌等を用いた普及啓発について

【主な意見】

- 県内の後発医薬品使用率はほぼ80%を達成しており、今の状態を維持できれば良いのではないかと。
- 院内処方分に関して重点的に指導、啓発が必要と思われる。
- 発癌性物質の混入のような事態が起きた場合は速やかに開示することが信頼を得る道と思われる。

○若年層に対する啓発について、絵本の他に子どもの保護者へ安全性を伝えるような啓発活動が重要ではないか。子育て支援の中で、薬の使い方や病気になったときの対処法などの講習会などで話をしてはどうか。

○若年層への後発医薬品の啓発については、電子お薬手帳の強力な普及が大きく貢献できるのではないか。電子お薬手帳で後発医薬品の安全性や経済性をアピールし、患者さんに意識してもらうことが有効ではないか。

○若年層に対する啓発について、夜間休日診療所はほぼ先発医薬品を使用しており、小児の利用も多いので、ここからの切り替えの活動を検討していただきたい。